使用説明書

撮影早分かり

【入門編】
撮影しましょう

【初級編】
場面に合わせて
撮ってみましょう

【中級編1】
写真の描写を
変えてみましょう 1

【中級編2】
写真の描写を
変えてみましょう 2

知っておくと便利です

MINOLTA

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿　〒160-0022　東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）　TEL（03）3356-6281㈹
大　阪　〒530-0001　大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）　TEL（06）6341-6501㈹

サービスステーション

札　幌　〒060-0807　札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）　TEL（011）737-1212㈹
仙　台　〒980-0802　仙台市青葉区二日町14-15（アミ・グランデ二日町ビル3階）　TEL（022）261-3431㈹
横　浜　〒231-0015　横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）　TEL（045）663-1445㈹
静　岡　〒420-0857　静岡市御幸町5-9（静岡FSビル7階）　TEL（054）251-7301㈹
名古屋　〒460-0002　名古屋市中区丸の内1-4-12（アレックスビル4階）　TEL（052）239-1251㈹
広　島　〒730-0041　広島市中区小町3-25（住金物産広島ビル1階）　TEL（082）247-3978㈹
高　松　〒760-0078　高松市今里町1-17-20　TEL（087）835-5568㈹
福　岡　〒812-0013　福岡市博多区博多駅東3-4-10（コマバビル1階）　TEL（092）441-6121㈹

営業時間 ･････････････新宿・大阪　10:00～18:00（日曜･祝日定休）
　　　　　　　　　　その他　9:00～17:30（土曜･日曜･祝日定休）

9223-2155-61 MM-A901

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ご使用前に、この使用説明書をよくお読みください。
この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。
（左図の場合は発熱注意）

⚠ 警告

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性（＋／ー）を逆に入れないでください。**

- **電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。**
- **新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。**

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って、正しく廃棄またはリサイクルしてください。

⚠ 警告

電池や幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意を払ってください。ストラップが首に巻き付くなどの事故の恐れがあります。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。
失明の恐れがあります。

⚠ 注意

直射日光の当たる場所に放置しないでください。
太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを取り付けてください。

目次

撮影早分かり

正しく安全にお使いいただくため
目次 2
各部の名称 4
　カメラボディ 4
　ボディ表示部 6
　ファインダー表示部 7
撮影早分かり 8

撮影しましょう【入門編】

レンズの取り付け方／取り外し方 12
電池を入れます 13
　電池容量の確認 14
シャッターボタンの半押し／カメラの構え方 15
フィルムの入れ方 16
おまかせＰモード（全自動）で撮影しましょう 18
ピント合わせ
　フォーカス表示 19
　ピント合わせのためにフラッシュが光ります（AF補助光） 20
　オートフォーカスの苦手な被写体 21
　写したいものが画面中央にないときは（フォーカスロック） 22
フラッシュ撮影
　フラッシュ表示 23
　フラッシュ光の届く範囲 23
　フラッシュを必ず発光させたいとき（強制発光） 24
　フラッシュを発光させたくないとき（発光禁止） 24
　目が赤く写るのを軽減します 25
　内蔵フラッシュ使用時の注意 26
フィルムを取り出します 27
　最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは 27

場面に合わせて撮ってみましょう【初級編】

ポートレート 30
記念撮影・風景 31
クローズアップ 32
スポーツ 33
夜景ポートレート・夜景 34
セルフタイマー撮影 36
連続撮影 37
日付・時間を写し込むには 38
パノラマ撮影 40

写真の描写を変えてみましょう１【中級編１】ーシャッター速度と絞りを変える

露出モードについて 44
Ａ（絞り優先）モード撮影 45
Ｓ（シャッター速度優先）モード撮影 48
Ｍ（マニュアル）モード撮影 51

写真の描写を変えてみましょう２【中級編２】ーピント・露出・フラッシュ撮影の詳細

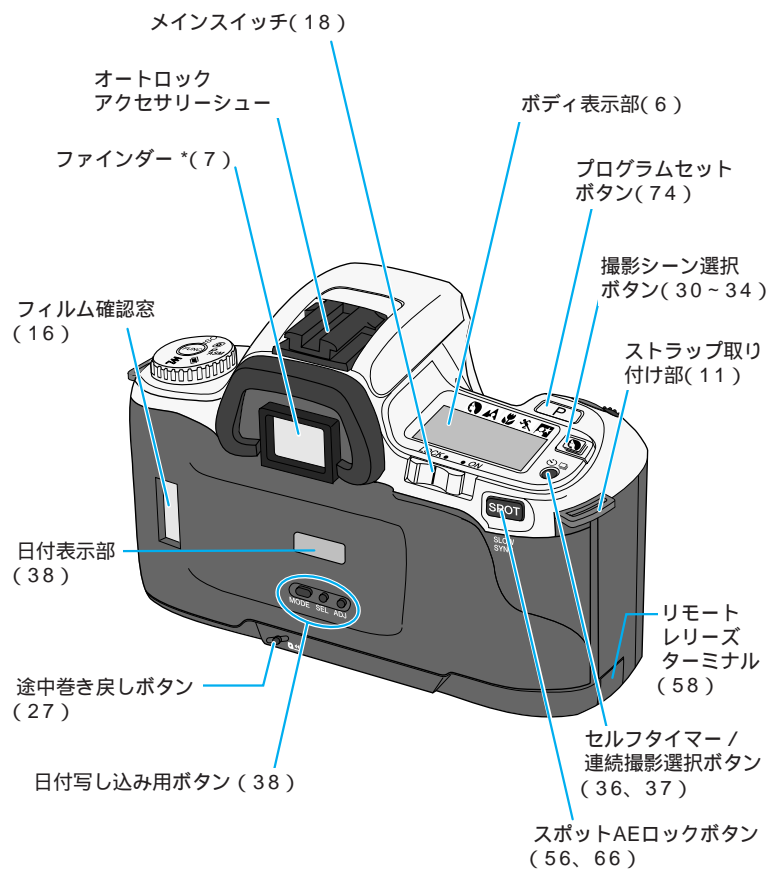
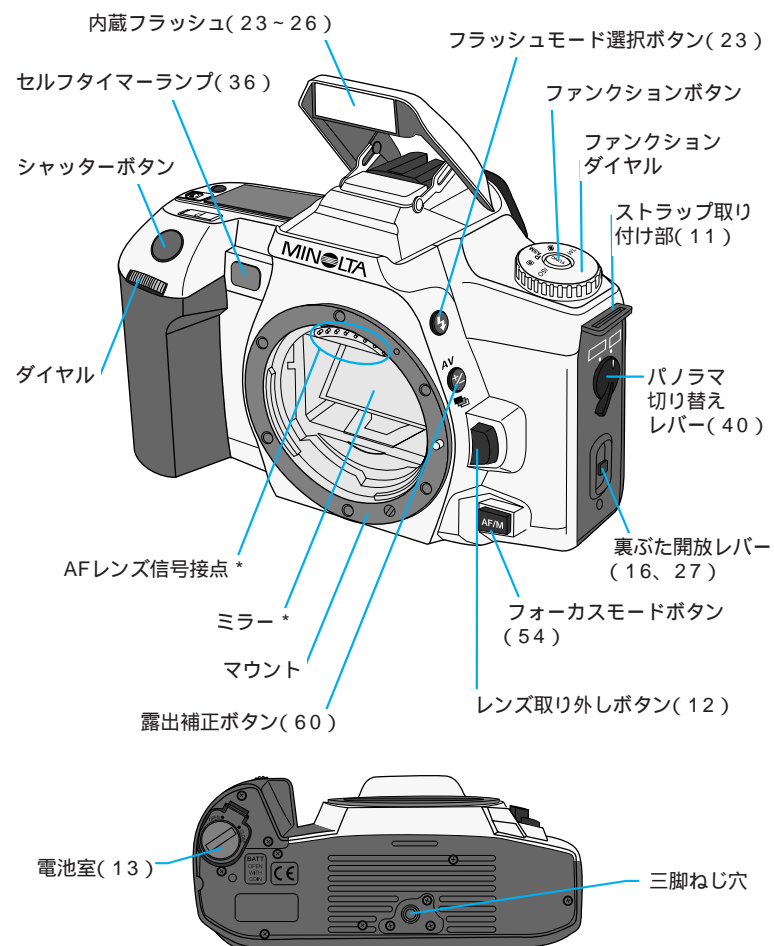
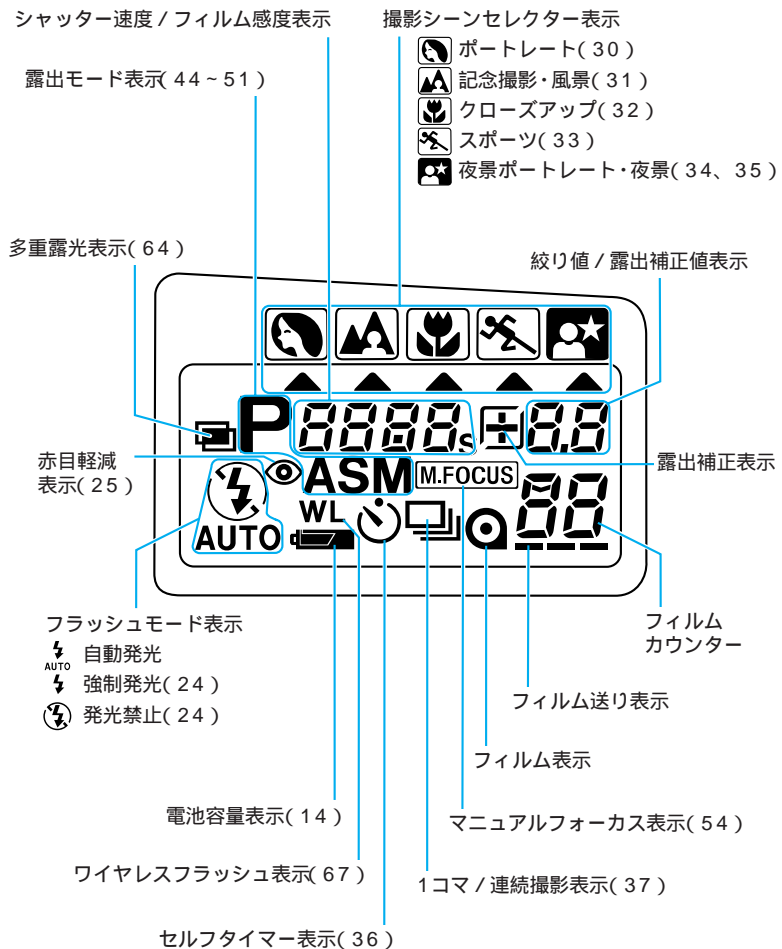
手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス） 54
フィルム感度の設定と変更 55
スポット測光 56
長時間露光（バルブ撮影） 58
画面全体を明るく・暗くする（露出補正） 60
ブラケット（露出ずらし）撮影 62
多重露光 64
スローシンクロ撮影 66
ワイヤレスフラッシュ撮影 67

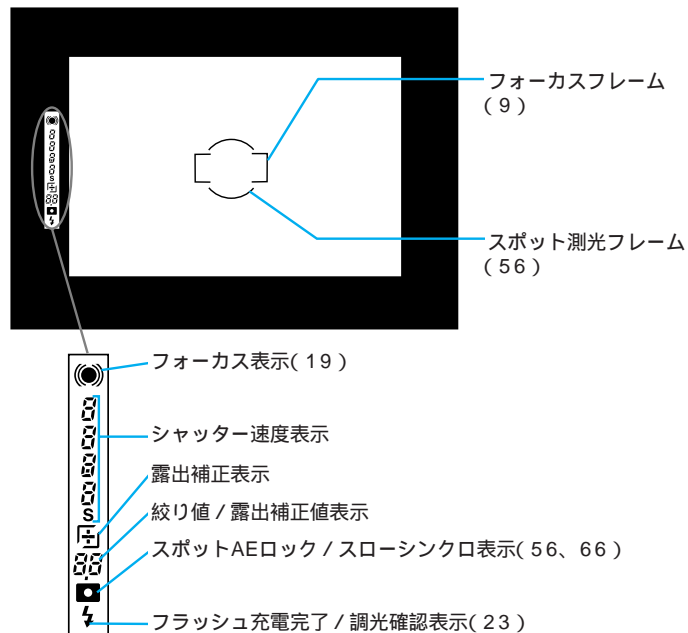
知っておくと便利です

プログラムセットボタンの機能 74
カメラの操作方法を変更できます 75
このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー 76
測光値表示が点滅したときは（露出の警告） 79
あれっ？と思ったときは 80
取り扱い上の注意 82
手入れと保管の仕方 83
主な性能 84

各部の名称

*印のついたところは、直接手で触れないでください。
(　) 内は参照ページです。

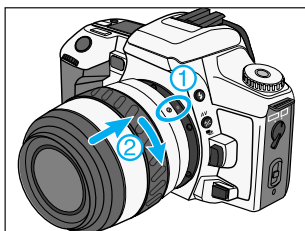
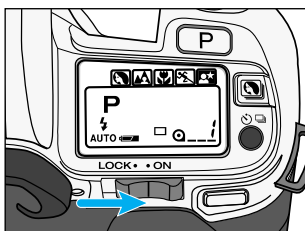
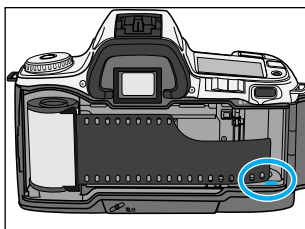
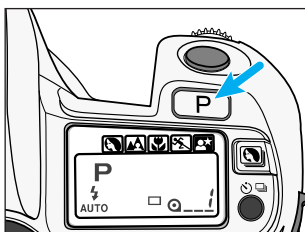
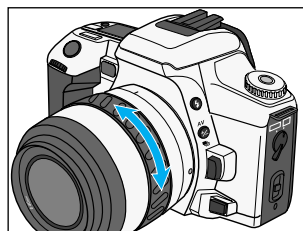
カメラボディ

ボディ表示部

※6、7ページの図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

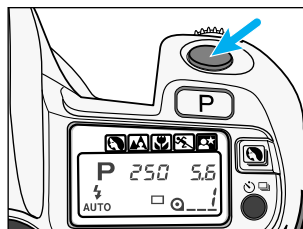
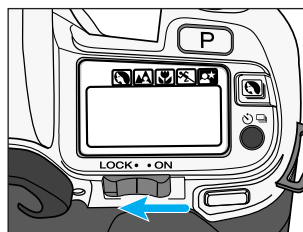
ファインダー表示部

フォーカス表示

● 点灯	ピントが合っています
(●) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません

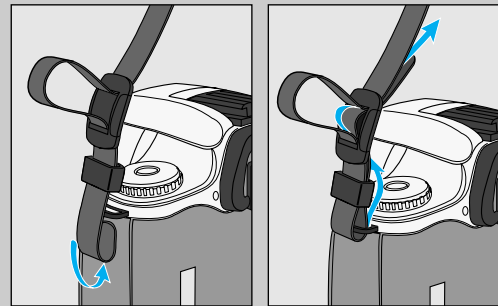
フラッシュ充電完了／調光確認表示

消灯（シャッターボタン半押しした時）	フラッシュは発光しません
点灯（シャッターボタン半押しでフラッシュが上がった後）	フラッシュの充電が完了しました
点滅（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました

撮影早分かり（詳しくは本文をご覧ください）

1. レンズを取り付けます。
レンズとボディの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

2. 電源を入れます。
メインスイッチをONにします。

3. フィルムを入れます。
フィルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。

4. 全自動にします。
プログラムセットボタンを押します。

5. 構図を決めます。
ズームリングを回して希望の大きさを決めます（ズームレンズ使用の場合）。

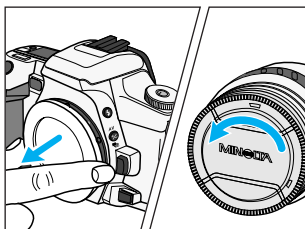
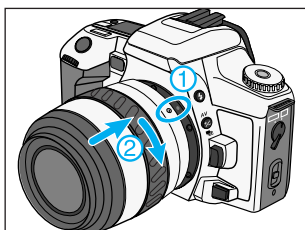
6. カメラを構えます。
写したいものがフォーカスフレーム［　］に入るようにカメラを構えます。

7. 撮影します。
シャッターボタンをゆっくり押し込むと、途中で自動的にピントが合います。そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。
カメラが動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

8. 撮影後は電源を切ります。
メインスイッチを LOCK にします。

撮影しましょう
【入門編】

この章では、撮影前の準備と、最も簡単な撮影方法を説明しています。初めてカメラをご使用になる方でも、この章をお読みいただければ簡単に撮影できます。

付属のストラップを取り付けると、持ち運びに便利です。

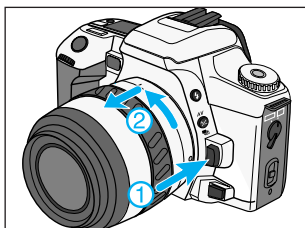
- ●ストラップの先が止め具の内側になるように取り付けます。
- ●反対側も同様に取り付けてください。

レンズの取り付け方／取り外し方

取り付け方

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み①、カチッと音がするまで時計方向に回します②。

●レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

●レンズを斜めに差し込まないようにしてください。

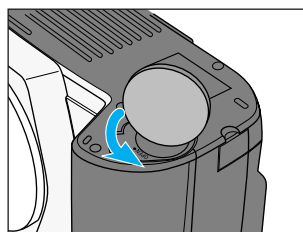
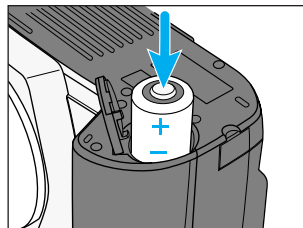
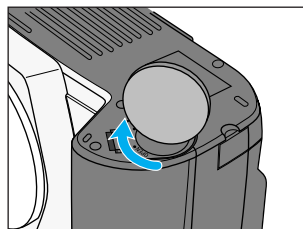
取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します②。

●取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

●カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。

●フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書をご覧の上、正しく装着してください。

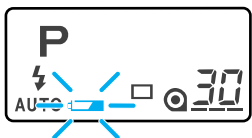
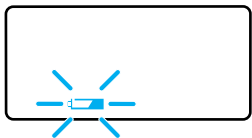
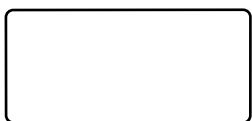
電池を入れます

3Vリチウム電池CR2を2個使用します。

1. カメラボディを逆さまにして、電池室ふたの溝に硬貨を差し込み、「OPEN」の位置まで回します。

2. 電池室内の＋／−表示にしたがって電池を入れます。

3. ふたを閉め、硬貨を溝に差し込んで、「CLOSE」の位置まできっちり回します。

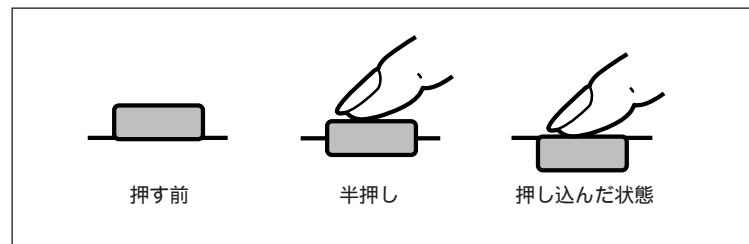
●ふたを開けたまま、ふたを下にしてカメラを置かないでください。ふたの破損の原因となります。

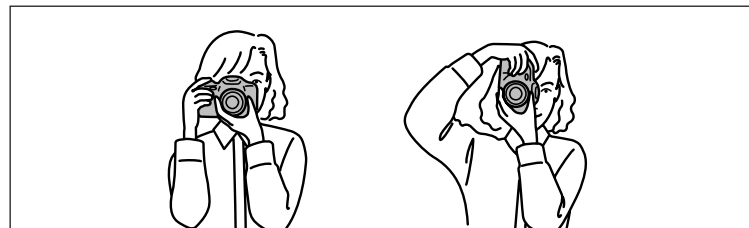
電池容量の確認

メインスイッチをLOCKからONにすると、自動的に電池の容量がチェックされ、ボディ表示部にその結果が表示されます。

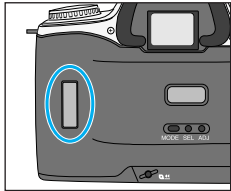
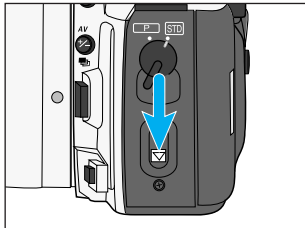
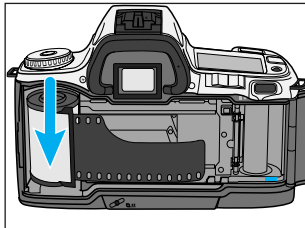
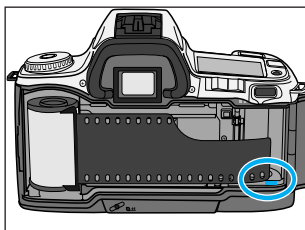
点灯（5秒間）——電池容量は十分です。

点滅——電池を交換することをおすすめします（この状態でも撮影はできます）。

のみ点滅（他の表示すべて消灯）——新しい電池と交換してください（シャッターは切れません）。

メインスイッチをONにしてもボディ表示部に何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。

●お買い上げのときに入っている電池は出荷時に入れたものなので、新品電池と比べて消耗が早くなることがあります。

シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

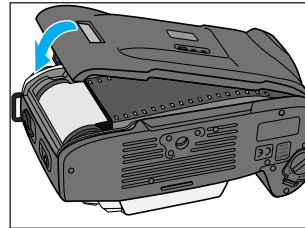
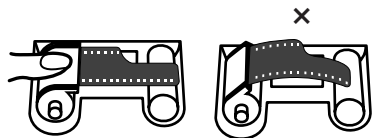
カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

●右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側をもって支えます。
●片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
●暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。

フィルムの入れ方

フィルム確認窓でカメラの中にフィルムが入っていないことを確認してから、裏ぶたを開けてください。

1. 裏ぶた開放レバーを押し下げて、裏ぶたを開けます。

2. フィルムを図のように入れます。

3. フィルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます

●フィルムが浮き上がらないようにパトローネ（フィルム容器）を押さえてください。

○

×

4. 裏ぶたを閉じます。

●フィルムが自動的に巻き上げられます。

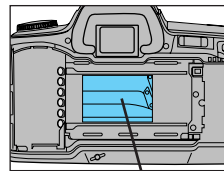
●フィルムが正しく巻き上げられていれば、フィルム感度と ⊙__1 が表示されます（フィルム感度は5秒間のみ表示）。

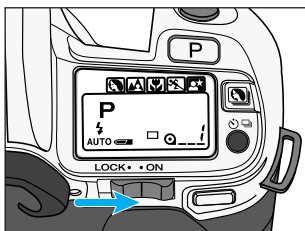
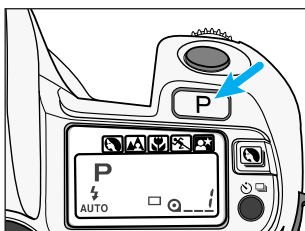
●メインスイッチがLOCKの状態でフィルムを入れた場合は、フィルム感度と ⊙__1 が5秒間表示された後、表示が消えます。

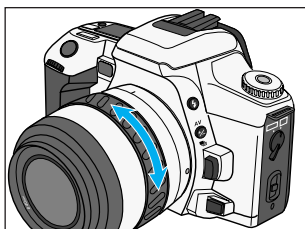
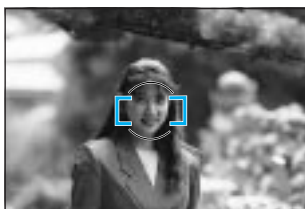
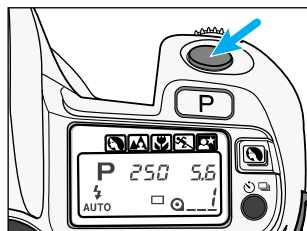
●フィルムが正しく送られていない場合、フィルムカウンターの __0 が点滅します。このときは、裏ぶたを開けてフィルムを取り出し、もう一度入れ直してください。

●フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

●ポラロイドインスタントリバーサルフィルムや赤外線フィルムは使用できません。

●フィルム感度は自動設定されます。フィルム感度の変更については55ページをご覧ください。

シャッター幕

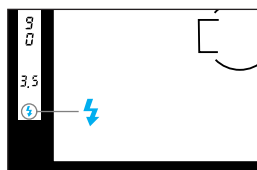
シャッター幕は非常に薄く精巧に作られています。フィルムを入れる際に、手やフィルムの先が絶対に触れないように注意してください。

1. メインスイッチをONにします。

2. プログラムセットボタンを押します。

●カメラは全自動の状態になります。特に設定を変えないかぎり、毎回押す必要はありません。

3. 撮影したいものが希望の大きさになるように、レンズのズームリングを回します(ズームレンズ使用時のみ)。

4. ピントを合わせたいものがフォーカスフレーム［　］に入るようにカメラを構えます。

5. シャッターボタンを半押しします。

●ピントが合います。（20ページ参照）

●ファインダー内に ϟ が点灯したら、フラッシュが発光します（本ページ下部参照）。

6. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

ϟフラッシュが光るとき

ファインダー内に ϟ が点灯したら、フラッシュが発光します。以下の手順にしたがってください。

5. カメラを構えシャッターボタンを半押しします。

●フラッシュが必要な場合（被写体が暗い場合や逆光の場合）、フラッシュが自動的に上がります。

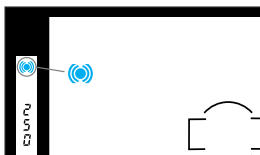
●フラッシュの充電が完了したら、 ϟ が点灯します（フラッシュの充電中は ϟ が消灯しています。またこの時シャッターはきれません。）

6. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●フラッシュが発光します。

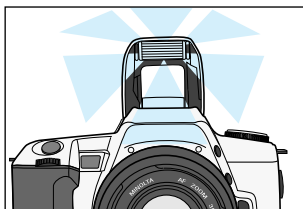
●撮影後は、ファインダー内の ϟ が点滅して、フラッシュ光が被写体に届いたことをお知らせします。

ピント合わせ

フォーカス表示

カメラを構えシャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。

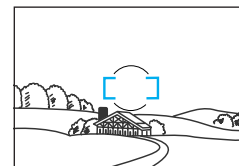
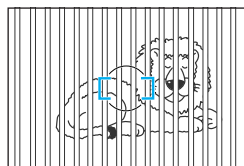
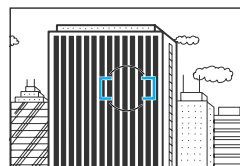
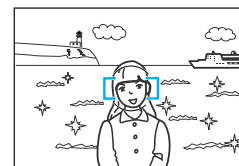
● 点灯	ピントが合っています
(●) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません

●ファインダー内フォーカス表示 ● が点滅したときは
- オートフォーカスの苦手なもの（次ページ参照）、またはレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮ろうとしていないか確認してください。

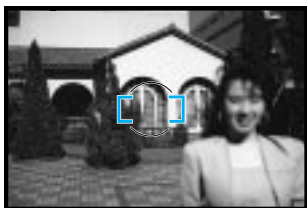
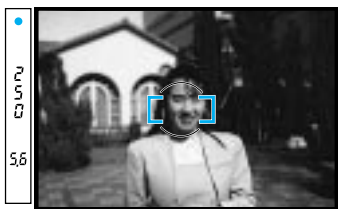
ピント合わせのためにフラッシュが光ります（AF補助光）

暗いところでフラッシュ撮影をしていると、シャッターボタンを半押ししたときに、フラッシュが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

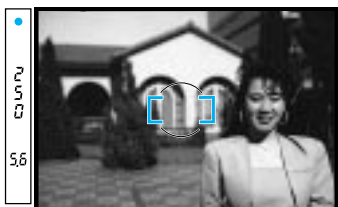
●補助光の届く範囲は、約1〜5mです（当社試験条件による）。
●内蔵フラッシュを発光禁止にしているときは、AF補助光は発光しません。
●被写体が動いているとき（ファインダー表示(●)が点灯しているとき）は、補助光は発光しません。
●プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光します。
●レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3×ー1×使用時にも、AF補助光は発光しません。
●このAF補助光を発光させないようにすることもできます。（75ページ参照）

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、以下のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にある別のものにピントを合わせてから撮影してください（22ページ参照）。

青空や白壁などコントラスト（明暗差）のないもの

おりの中の動物など、[　]の中に距離の異なるものが混じっているとき

ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

太陽のように明るい被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

フォーカスロック

写したいものが画面中央にないときは（フォーカスロック）

ピントを合わせたいものが[　]に入らないときに、そのまま撮影すると、[　]と重なっている背景にピントが合って人物がぼけた写真になってしまいます。このようにピントを合わせたいものが[　]の位置にないときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

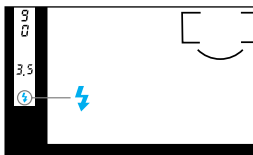
●自動的にピントがあい、ファインダーのフォーカス表示 ● が点灯になります。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にします。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●フォーカス表示 ● が点灯しないとき（被写体が動いているときなど）は、ピントが固定されないので、フォーカスロック撮影はできません。

フラッシュ撮影

プログラムセットボタンを押すと、フラッシュは自動発光⚡AUTOとなります。自動発光にしていると、フラッシュが必要な場合には、シャッターボタンを半押しにすると内蔵フラッシュが自動的に上がり、フラッシュが発光します。最初からフラッシュが上がった状態では、必要な場合には自動的に発光します。

フラッシュ表示

⚡**消灯**（シャッターボタン半押しでフラッシュが上がった後）	**フラッシュは充電中です（シャッターは切れません）**
⚡**点灯**（シャッターボタン半押しでフラッシュが上がった後）	**フラッシュの充電が完了しました**
⚡**点滅**（撮影後）	**フラッシュ光が被写体に届きました**

●フラッシュ充電中（約3秒間）は撮影できません。
●撮影後⚡が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。下の表で、フラッシュ光の届く範囲を確認してください。

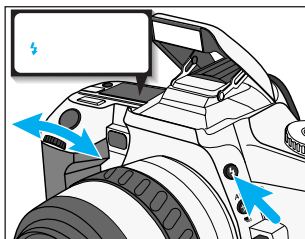
フラッシュ光の届く範囲

内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があり、絞り値*とフィルム感度によって異なります。以下の表を目安にしてください。

*絞り値とは、シャッターボタンを半押ししたときに表示部に現れる3.5や 4 等の値のことです（47ページ参照）。

	フィルム感度	
絞り値	ISO 100	ISO 400
F2.8	1.0 ～ 4.3 m	1.0 ～ 8.6 m
F3.5	1.0 ～ 3.4 m	1.0 ～ 6.8 m
F4	1.0 ～ 3.0 m	1.0 ～ 6.0 m
F5.6	1.0 ～ 2.1 m	1.0 ～ 4.3 m

フラッシュを必ず発光させたいとき（強制発光）

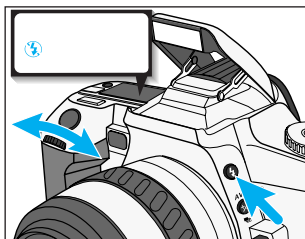
屋外で人物の顔に帽子の影ができているときや、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなどは、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

フラッシュモード選択ボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に⚡を表示させます。

●撮影後もそのまま強制発光になっています。

●上記の操作をしなくても、フラッシュモード選択ボタンを押しながらシャッターボタンを押してフラッシュを必ず発光させることもできます。

●自動発光に戻すときは、上記の操作で⚡AUTOを表示させるか、またはプログラムセットボタンを押してください。

フラッシュを発光させたくないとき（発光禁止）

美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されているときは、フラッシュを発光させずに撮影します。

フラッシュモード選択ボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に⊘を表示させます。

●フラッシュが上がった状態でも発光しません。

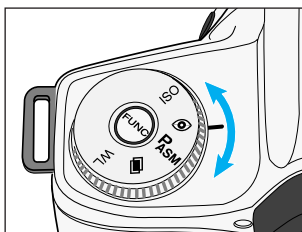
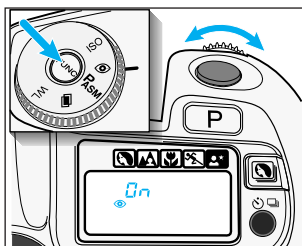
●撮影後もそのまま発光禁止になっています。

●上記の操作をしなくても、フラッシュを手で押し下げながら撮影すると、フラッシュを発光させずに撮影することができます。

暗いところで発光禁止⊘を選んで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、写真がぶれやすくなります。三脚を使って撮影してください。

●自動発光に戻すときは、上記の操作で⚡AUTOを表示させるか、またはプログラムセットボタンを押してください。

目が赤く写るのを軽減します

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させると、この現象を和らげることができます。

1. ファンクションダイヤルを👁の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部に👁 Onを表示させます。

●ボタンから手を離すと通常の表示に戻り、ボディ表示部には👁が残ります。

●フラッシュの本発光の前に数回、小光量の発光が行われます。人物撮影のときは、写される人にその旨を伝えておくことをおすすめします。

●発光が１回きりの通常のフラッシュ撮影に戻すには、同じ操作でボディ表示部に👁 OFFを表示させます。

内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

●被写体から1m以上離れて撮影してください。

●レンズフードは取り外してください。

●下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

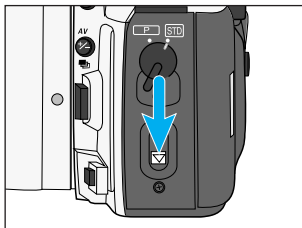
・AFズーム17-35mm F3.5G
・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
・AFズーム20-35mm F3.5-4.5
・AFズーム28-70mm F2.8G
・AFズーム28-135mm F4-4.5
・AFズーム35-80mm F4-5.6

●下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。
・AFアポテレ300mm F2.8（ハイスピードタイプを含む）
・AFアポテレ600mm F4（ハイスピードタイプを含む）

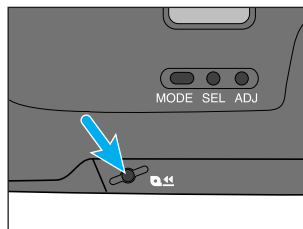
●このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離28mmの画角をカバーします。28mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺まで光が届かず、暗くなることがあります。

フィルムを取り出します

フィルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

1. 巻き戻しの終了を待ちます。
●フィルムカウンターが「0」になり、◉が点滅したら巻き戻しは終了です。

2. 裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

3. 巻き戻し後は電源を切ります。
●メインスイッチを LOCK にします。

最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは

ボディ背面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

場面に合わせて撮ってみましょう【初級編】

撮影シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

ポートレート
人物が浮き立つように、背景が美しくぼけて写ります。

記念撮影・風景
どこで撮影したかがすぐ分かるように、手前の人物にも背景にもピントが合うように写ります。

クローズアップ
小さな草花や昆虫などを撮影するときに使います。

スポーツ
速く動いているものでも、ぶれないように写ります。

夜景ポートレート・夜景
夜景がつぶれることなくきれいに写ります。

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます（毎秒1コマ）。

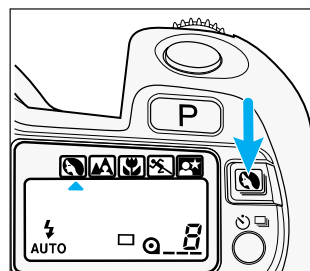
日付・時間を写し込むには

写真に日付を写し込むことができます。

パノラマ撮影

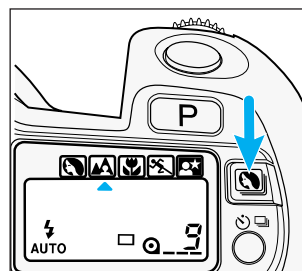
迫力あるパノラマ写真が撮れます。

ポートレート

背景を程よくぼかし、人物をくっきりと立体的に引き立たせます。

撮影シーン選択ボタンを押して、の下に▲を表示させます。

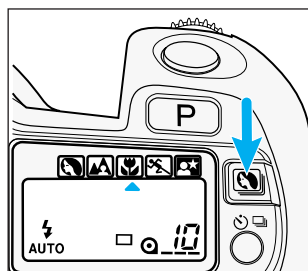
●逆光のときや、顔に影ができているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
●背景をぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

記念撮影・風景

手前の人物も、思い出に残したい背景も、両方ともくっきりと写します。風景写真もシャープに写せます。

撮影シーン選択ボタンを押して、の下に▲を表示させます。

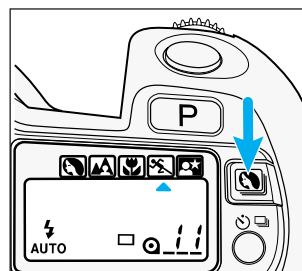
●記念写真で逆光のときは、フラッシュの使用をおすすめします。風景のみ撮影するときは、フラッシュ光が届かないのでフラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンとダイヤルで発光禁止を選んでください）。内蔵フラッシュ光の届く範囲については23ページをご覧ください。
●曇りの日などそれほど明るくないときは、手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。
●夜景を背景に記念撮影する場合は、夜景ポートレートモードをお使いください。
●画面全体にピントを合わせるには、レンズの広角側の方が効果があります。

クローズアップ

小さい草花や昆虫などを近接撮影するときに使います。被写体全体をくっきりとシャープに写すことができます。

撮影シーン選択ボタンを押して、
の下に▲を表示させます。

●1m以内の距離では、写真の下部に影ができるため、内蔵フラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンとダイヤルで発光禁止を選んでください)。1m以内のフラッシュ撮影には、別売のマクロフラッシュをおすすめします。
●クローズアップ撮影では手ぶれが目立ちやすくなるので、三脚の使用をおすすめします。
●レンズの最短撮影距離に注意して撮影してください。
●より大きく撮影するには、AFマクロレンズをおすすめします。

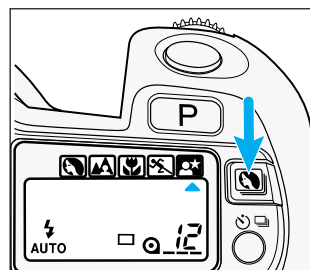
スポーツ

速く動いているものを速いシャッター速度でシャープに写し止めます。

撮影シーン選択ボタンを押して、
の下に▲を表示させます。

●なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
●フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュは使用しないでください（フラッシュモード選択ボタンとダイヤルで発光禁止を選んでください)。内蔵フラッシュ光の届く範囲については23ページをご覧ください。
●望遠レンズ使用時には、手ぶれしやすいので三脚の使用をおすすめします。
●このモードでは、被写体の動きに応じて常にピント位置が変わります。

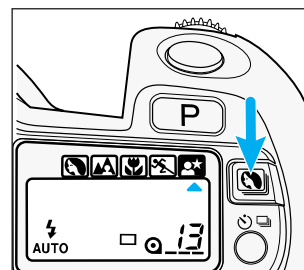
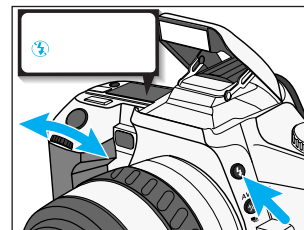
夜景ポートレート・夜景

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景の場合）

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。

撮影シーン選択ボタンを押して、の下に▲を表示させます。

- ●手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。また、撮影される人物が動くと写真もぶれるので、動かないように注意してください。
- ●なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
- ●フラッシュは自動発光 AUTO または強制発光 にしてください。

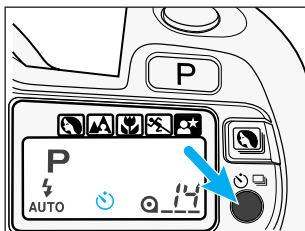
夜景撮影（夜景のみの場合）

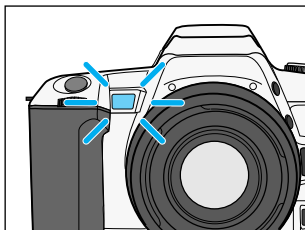
フラッシュ光の届かない夜景をきれいに写します。

1. 撮影シーン選択ボタンを押して、の下に▲を表示させます。

2. フラッシュモード選択ボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部にを表示させます。

- ●手ぶれしやすいので、三脚を使用してください。
- ●なるべく高感度なフィルム（ISO400など）の使用をおすすめします。
- ●明かりの少ない、全体的に暗い夜景だと、写真がうまく仕上がらないことがあります。
- ●ピントが合いにくいときは、明るい部分でピントを合わせてから撮影してください（22ページ参照）。

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。

1. カメラを三脚などに固定します。

2. セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押して、ボディ表示部に⏱を表示させます。

3. 撮りたいものにファインダー内の[　]を重ね、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

4. そのままゆっくりと、シャッターボタンを押し込みます。

●セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。

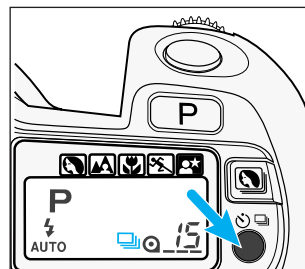
●撮影後はセルフタイマーは解除されます。

●カメラの真正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせができなくなります。

●作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにするか、もう一度セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押してください。

●カメラの後に明るい光源や反射物などがあるときは、ファインダーから光が入るのを防ぐため、アイピースキャップを付けてください（59ページ参照）。

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒1コマの速さで連続して撮影されます。

1. セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押して、ボディ表示部に⧉を表示させます。

2. シャッターボタンを押し続けます。

●押し続けている間、連続してシャッターが切れます。

●連続撮影を終えるときは、セルフタイマー／連続撮影選択ボタンを押して、ボディ表示部に□を表示させてください。

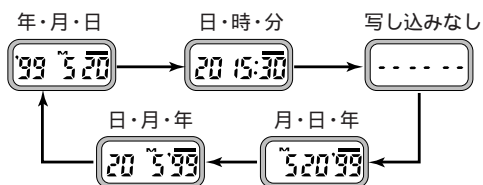
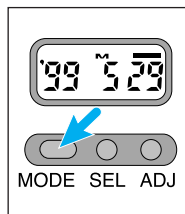
●フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。

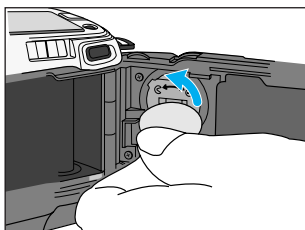
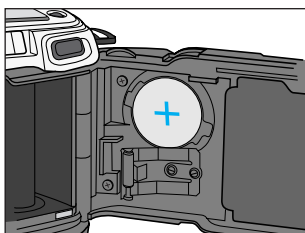
●シャッターボタンを押し続けている間でも、被写体までの距離が変わったときは、その度ピントを合わせ直します。ピントが合うまでシャッターは切れません。

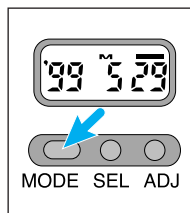
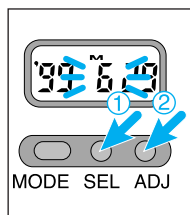
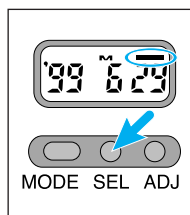
●AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

日付・時間を写し込むには

撮影時の日付や時間を写し込むことができます。このカメラには2019年までの日付が記憶されています。パノラマ写真にも写し込むことができます。

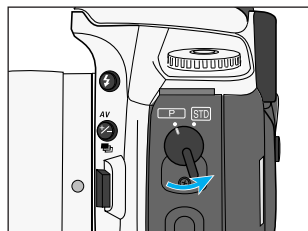
モードボタンを押して、写し込みたい表示を選びます。

写し込み用電池の交換

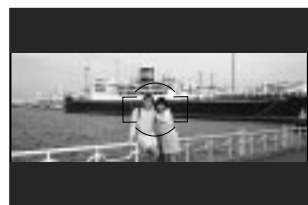
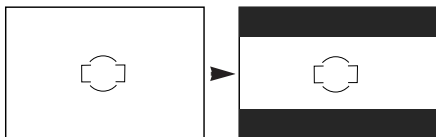
写し込んだ文字や表示部が見えにくくなってきたら、電池を交換してください。
コイン型3VリチウムCR2025を1個使用します。

1. 裏ぶたを開け、裏ぶたの内側にある電池室のふたの溝にコインを差し込み、矢印の方向へ回してふたを開けます。

2. 古い電池を取り出し、新しい電池の＋側を上にして電池室に入れます。
3. 元通りにコインでふたを閉めます。
4. 日付・時間を修正します。

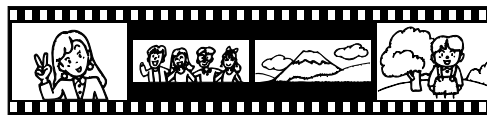
日付・時間の修正

1. モードボタンを押して、変更したい表示を選びます。

2. セレクトボタンを押して変更したい数字を点滅させ①、アジャストボタンを押して数字を変更します②。
   - ●修正中は、セレクトボタンを押すたびに、年→月→日、または、時→分→：（コロン）の順に表示が点滅します。
   - ●アジャストボタンを押し続けると、数字は連続して変わります。
   - ●秒を時報に合わせるには、：を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

3. 上記２の操作を繰り返して、変更が終了したら、点滅している数字がなくなり、「ー」が点灯するまでセレクトボタンを押します。

●写し込み位置に明るい色（空や白い壁など）があると、写し込んだ文字が読みにくくなることがあります。
●日付写し込み機能は0～50℃の範囲でご使用ください。それ以外では正常に機能しないことがあります。
●コイン型電池は幼児やお子様の手の届かない場所に置いてください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

パノラマ撮影

撮影の途中で、標準撮影とパノラマ撮影を切り替えることができます。

1. パノラマ切り替えレバーをパノラマ P 側にします。

●ファインダーがパノラマ用に切り替わります。

2. 構図を決めて撮影します。

●標準撮影にもどすときは、パノラマ切り替えレバーを標準 STD 側にします。
●パノラマ切り替えレバーは止まるまで（レバーの指標▬ がきちんと●を指すまで）確実に操作してください。
●パノラマ撮影するときは、画面の周辺に少し余裕を持たせてください。プリントされる範囲が、実際に撮影した画面よりもやや狭くなることがあります。
●広角レンズで撮影すると、パノラマらしさがよりいっそう効果的に表現されます。

●パノラマ撮影したフィルムには、図のように上下に露光されない部分があります。
●パノラマ撮影してもフィルムの撮影枚数は変わりません。
●パノラマ写真の一般的なプリントサイズは、89㎜×254㎜（標準）です。

パノラマ撮影したフィルムを現像・プリントに出すときは、パノラマ撮影したフィルムであることをお店に伝えて出してください。

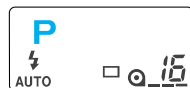
写真の描写を変えてみましょう1
【中級編1】
シャッター速度と絞りを変える

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。

露出モードについて

このカメラには、以下の４つの露出モードがあります。設定されている露出モードは、ボディ表示部で確認することができます。

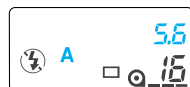
P（プログラム）モード

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

●プログラムセットボタンを押すと、Ｐモードになります。

●Ｐモードでは、絞り値とシャッター速度は自動的に決まるので、特に何も設定せずにそのまま撮影できます。（撮影方法については18～19ページ参照）

●撮影シーンセレクター選択時は、Ｐの表示は現れませんが、絞り値とシャッター速度は自動的に決まります。

A（絞り優先）モード（→45ページ）

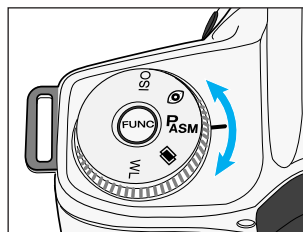
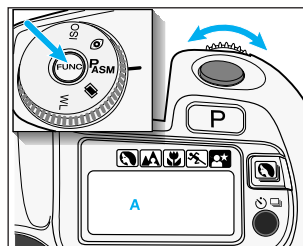
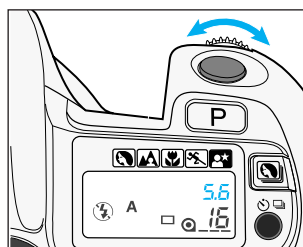
撮影者が希望の絞り値を決めることができます。カメラが自動的にシャッター速度を決めます。ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のぼけ具合をコントロールしたいときなどに使います。

S（シャッター速度優先）モード（→48ページ）

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。カメラが自動的に絞り値を決めます。スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときなどに使います。

M（マニュアル）モード（→51ページ）

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

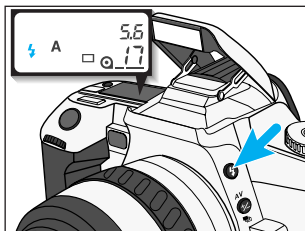
A（絞り優先）モード撮影

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞り値が変わると被写体以外のもののピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。絞り値を大きくすると近くのものから遠くのものまでくっきりと写り、小さくすると被写体以外のものがぼけやすくなります（47ページ参照）。

1. ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部にAを表示させます。

3. ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

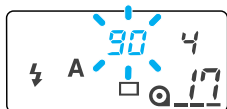
●Aモード撮影を終えたい時は、上記の操作を繰り返して表示部にPを表示させるか、プログラムセットボタンを押します。

●絞り値を変えてもファインダーでの見え方は変わりませんが、フィルム上およびプリントでは絞り値を変えた効果が現れます。

●シャッター速度が2000または30sで点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

A モードフラッシュ撮影

フラッシュは自動発光しません。
フラッシュモード選択ボタンを押して、フラッシュを上げて撮影してください。

●フラッシュが下がっていると発光しません。

●ボディ表示部には⚡が表示されます。
●シャッター速度は自動的に1/90秒以下になります。
●絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

●シャッター速度が90で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーの写真になります。シャッター速度が点滅しなくなるまで、絞り値を変更してください（絞り値を大きくし過ぎると、フラッシュ光が被写体に届かなくなることがあります）。

絞り値について

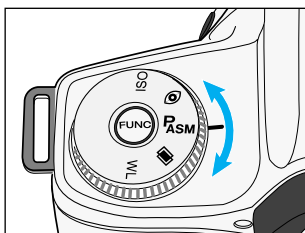
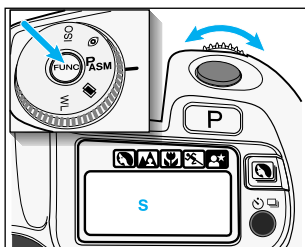
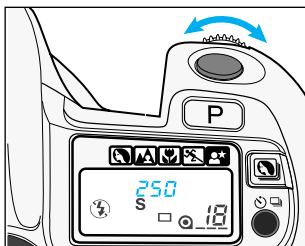
絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

左の写真は、絞り値が小さい状態で撮影しています。ピントが被写体のみに合っていて背景はぼけており、人物がくっきり浮き出てポートレートらしい写真になっています。
右の写真は、絞り値が大きい状態で撮影しています。被写体だけではなくその前後の広い範囲にピントが合って見え、記念撮影等に適した写真になっています。
このような背景の描写は、レンズの絞りで調節できます。絞りとは、フィルムに露光される光の量を調節する穴のことで、左の写真のように小さい値（F3.5、4など）ほど、ピントの合って見える範囲が狭くなり（背景がぼけ）、右のように大きい値（F16、22）ほど、ピントの合って見える範囲が広くなり（背景までピントが合い）ます。

●広角レンズほどピントの合って見える範囲が広くなり、望遠レンズほど狭くなります。
●カメラから被写体までの距離が短いほど、ピントの合って見える範囲が狭くなります。

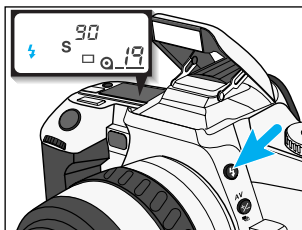
S（シャッター速度優先）モード撮影

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。シャッター速度が速いときには動いているものがくっきりと止まって見え、遅いときは動いているものが流れるように写ります。

1. ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部にSを表示させます。

3. ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

●Sモード撮影を終えたい時は、上記の操作を繰り返して表示部にPを表示させるか、プログラムセットボタンを押します。

●絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。絞り値が点滅しなくなるまで、シャッター速度を変更してください。

●表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2s、4sなど「s」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。

Sモードフラッシュ撮影

フラッシュは自動発光しません。
フラッシュモード選択ボタンを押して、フラッシュを上げて撮影してください。

●フラッシュが下がっていると発光しません。

●ボディ表示部には⚡が表示されます。
●1/90秒より速いシャッター速度は選べません。
●絞り値が大きくなる（絞りが絞り込まれる）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値が小さめになるように（開放側で）撮影することをおすすめします。
●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

（次ページへ続く）

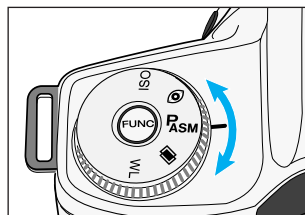
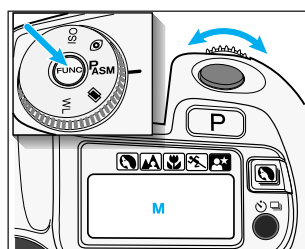
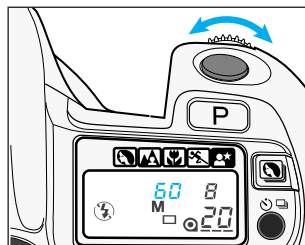
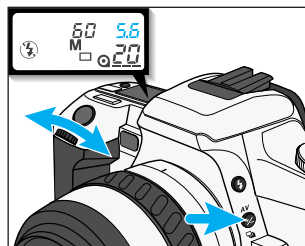
シャッター速度について

シャッター速度が速いとき

シャッター速度が遅いとき

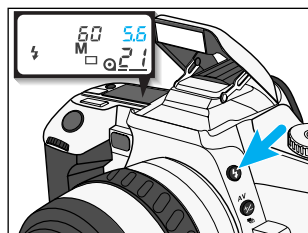
左の写真は、速いシャッター速度で撮影しています。滝の水しぶきが止まって見え、その様子がよく分かります。
右の写真は、遅いシャッター速度で撮影しています。水の流れがよく表現されています。
このように動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。
シャッター速度とは、光がフィルムに当たっている時間のことで、左のようにシャッター速度が速い（1/500秒、1/1000秒など）ほど動くものが止まって写り、右のように遅い（1/15秒、1/30秒）ほど流れるように写ります。

M（マニュアル）モード撮影

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1. ファンクションダイヤルをPASMの位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部にMを表示させます。

3. ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

4. 露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

●Mモードでは露出補正はできません。

Mモード時のファインダー内の表示

Mモードでは、撮影者が設定した絞り値とシャッター速度による露出値で、写真がどのように仕上がるか（適正露出かどうか）をカメラがお知らせします。

適正露出です

⊞が点灯：露出オーバーになります

⊟が点灯：露出アンダーになります

Mモードフラッシュ撮影

フラッシュは自動発光しません。
フラッシュモード選択ボタンを押して、フラッシュを上げて撮影してください。

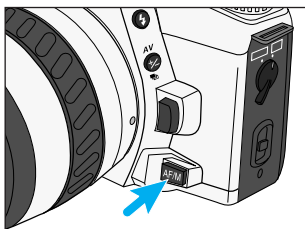
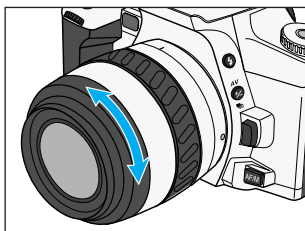
●フラッシュが下がっていると発光しません。

●ボディ表示部には⚡が表示されます。
●1/90秒より速いシャッター速度は選べません。
●絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。
●フラッシュを使わないときは、フラッシュを手で押し下げてください。

写真の描写を変えてみましょう2
【中級編2】
ピント、露出、フラッシュ撮影の詳細

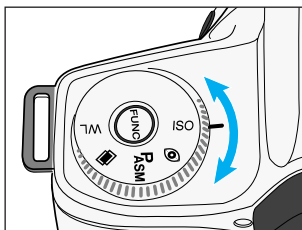
このカメラには、カメラや写真についてある程度の知識や経験をお持ちの方が撮影される上で、作画や露出判断の手助けとなる、さまざまな機能が搭載されています。これらを使うことで、撮影者の意図が反映された、より創造的な写真を撮ることができます。

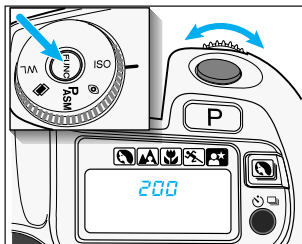
手動によるピント合わせ（マニュアルフォーカス）

オートフォーカスを使わずに、マニュアル（手動）で自由にピントを合わせることもできます。

1. フォーカスモードボタンを、カチッと音がするまでカメラ側に押し込みます。
●ボディ表示部に M.FOCUS と表示されます。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、レンズのフォーカスリングを左右に回します。

●オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、シャッターボタンを半押ししているときピントが合うと、ファインダー内のフォーカス表示●が点灯します。
●AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズをお使いの場合は、ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体が最もはっきり見えるところでズームリングから指を離してください。
●このカメラの測光方式（8分割ハニカムパターン測光）はオートフォーカスと連動しているため、マニュアルフォーカスにすると、同じ場面でも測光値が異なることがあります。
●もう一度フォーカスモードボタンをカチッと音がするまで押し込むと、オートフォーカスに戻ります。

フィルム感度の設定と変更

DXコードの付いていないフィルムをお使いの場合は、以下の要領でパッケージなどに記載されているフィルム感度をカメラに設定してください。また、増感撮影※など、意図的にフィルム感度を変更する場合も以下の要領で行なってください。

1. カメラにフィルムを入れます。

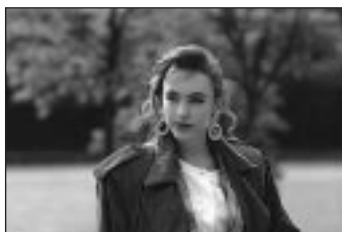
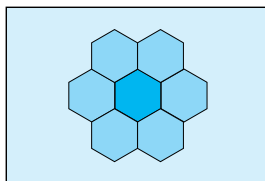
2. ファンクションダイヤルをISOの位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部に希望のフィルム感度を表示させます。
●設定可能なフィルム感度の範囲は、ISO6〜6400です。

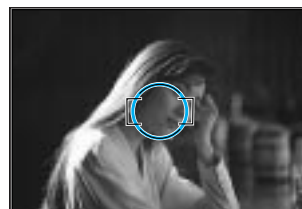
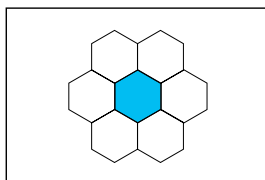
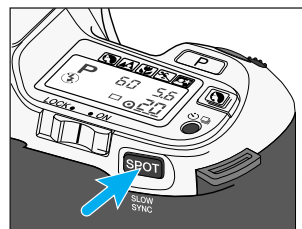
●フィルム感度を意図的に変更した場合、そのフィルムを撮り終わるまで、変更された設定が記憶されています。

※増感撮影とは

ISO 100のフィルムをISO 400に変更するなど、フィルム全体の感度を上げることを増感撮影といいます。増感撮影するときは、変更した感度でそのフィルムの全コマを撮影してください（1本のフィルムの途中から増感／減感することはできません）。また撮影後現像に出すときは、増感撮影したことを必ずお店の方にお伝えください。

スポット測光

このカメラの画面内には、7個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計8個の測光素子が配置されています。通常はこれらの測光素子が被写体や周囲の明るさを的確に判断し、露出を決定します。

8分割ハニカムパターン測光

スポット測光は、画面の中央の1個の素子のみで露出を決定する測光方式です。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。

スポット測光

1. 測光したい部分にスポット測光フレームを合わせます。

2. スポットAEロックボタンを押します.

●ファインダー表示部に ■ が点灯し、露出が固定されたことをお知らせします。

3. スポットAEロックボタンを押したまま、必要ならば構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します.

●スポットAEロックボタンを押し続けると、同じ露出で連続して撮影できます。

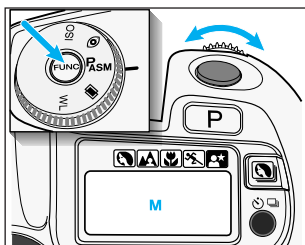
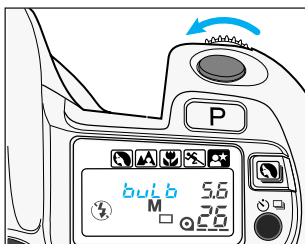
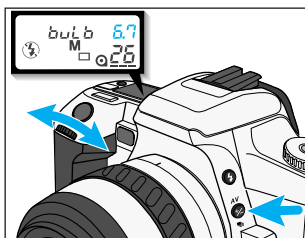
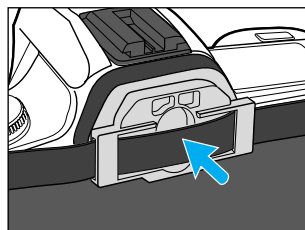
●フラッシュが発光するとき（ファインダー表示部に⚡が点灯しているとき）は、スポットAEロックボタンを押しながら撮影すると、スローシンクロ撮影になります（66ページ参照）。

●■ が点滅した場合は、被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて、カメラの測光範囲を超えています。正しい測光は行われません（79ページ参照）。

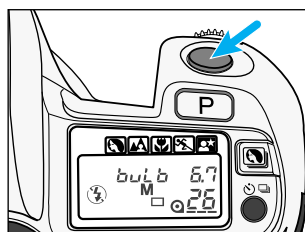
●スポットAEロックボタンから指を離しても露出が固定されたままになるように（押し続けなくてもよいように）、カメラの操作方法を変えることもできます。（75ページ参照）

長時間露光（バルブ撮影）

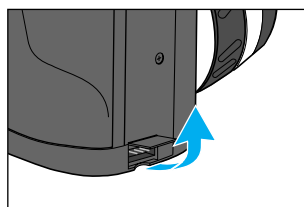
シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

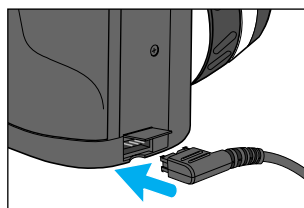
●バルブ撮影のときは、カメラを三脚に取り付けて撮影してください。

1. 露出モードをMモードにします。（ファンクションダイヤルをPASMにした後、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回す）

2. ダイヤルを左へ回して、bulbを選びます。

3. 露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

4. 構図を決めて、ストラップに付いているアイピースキャップを取り付けます。

●ファインダーにキャップを当て、そのまま押し付けます。

●ファインダーから光が入るのを防ぐためです。

5. 必要な時間、シャッターボタンを押し続けます。

リモートコードについて

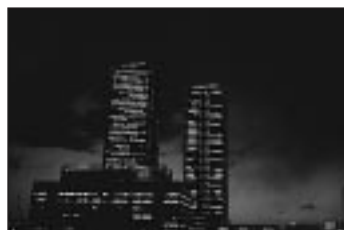
別売りのリモートコードRC-1000SまたはRC-1000Lを取り付ければ、カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぎ、またシャッターボタンを長時間押したまま固定することができます。

取り付け方

1. リモートレリーズターミナルのカバーを開けます。

2. リモートコードをターミナルに接続します。

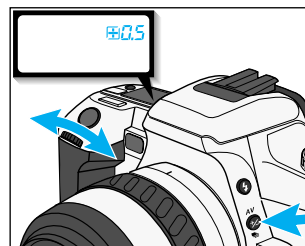
●コードをレンズ側にして接続してください。

画面全体を明るく・暗くする（露出補正）

適正露出

露出オーバー

露出アンダー

フィルムに当たる光の量を調節して、写真全体を明るめにしたり暗めにしたりすることができます。
フィルムにあたる光の量が多くなると、画面全体が明るくなって露出オーバーとなります。少なくなると、全体が暗くなって露出アンダーとなります。このカメラでは、意図的に露出オーバー、アンダーにする（露出補正をする）ことができます。

●ネガフィルムでは効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。

露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の補正値を設定します。

●＋は露出オーバー、－は露出アンダーを表わします。数値が大きいほど、露出補正量は大きくなります。
●－3.0から＋3.0まで、0.5段ごとに設定できます。

●露出補正ボタンから指を離すと、通常の撮影表示に戻ります。ボディ表示部とファインダー内に＋または－の表示が残り、露出補正されていることを表わします。

●露出補正を解除する場合は、上記と同じ操作で補正値を0.0にするか、プログラムセットボタンを押してください。
●Mモードでは露出補正はできません。

こんな撮影もできます

右のような場面だと、カメラは被写体である人形が明るく写るように、自動的に露出を調整します。このような場合にアンダー側に露出補正をかけると、人形をシルエットとして浮かび上がらせることができます。

自動露出で撮影

露出アンダー側で撮影

ブラケット（露出ずらし）撮影

リバーサルフィルムを使うときなど厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に、少し露出をずらして何点か撮影することがあります。これをブラケット（露出ずらし）撮影といいます。このカメラでは、自動的に適正露出、−0.5段、＋0.5段の3枚の撮影ができます。

撮影シーンセレクターを使ってのブラケット撮影

それぞれの絵表示のモードで、その場面に合った写真を撮るように、シャッター速度と絞りが自動的に調整され、適正露出、−0.5段、＋0.5段の3枚が撮影されます。

P（プログラム）モードでのブラケット撮影

シャッター速度と絞りの両方が自動的に調整され、適正露出、−0.5段、＋0.5段の3枚が撮影されます。

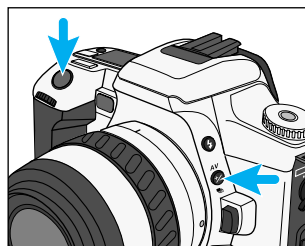
A（絞り優先）モードでのブラケット撮影

絞り値は固定され、シャッター速度が自動的に調整され、適正露出、−0.5段、＋0.5段の3枚が撮影されます。

S（シャッター速度優先）モードでのブラケット撮影

シャッター速度は固定され、絞りが自動的に調整され、適正露出、−0.5段、＋0.5段の3枚が撮影されます。

M（マニュアル）モードでのブラケット撮影

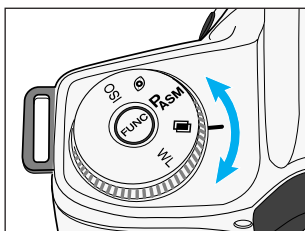
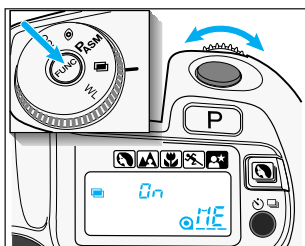
絞り値は固定され、シャッター速度が自動的に調整され、適正露出、−0.5段、＋0.5段の3枚が撮影されます。

1. ブラケット撮影する被写体にむかい構図を決め、露出補正ボタンを押しながらシャッターボタンを半押しします。

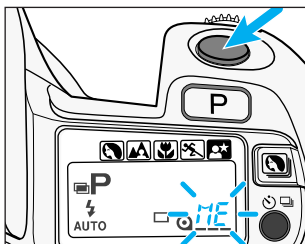
2. そのままの構図でシャッターボタンを押し込みます。

●連続して3枚のブラケット撮影が行なわれます。
●連続撮影が終わるまで、シャッターボタンから指を離さないでください。

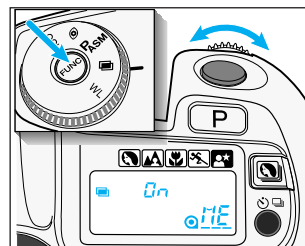
●フラッシュは発光しません。ボディ表示部には が表示されます。プログラムフラッシュ4000AF／2800AF／1800AF／1200AFをお使いのときは、フラッシュをOFFにしてください。ONにしていると、OFF FLが点滅して、シャッターは切れません。
●基準となる露出値（±0）とピント位置は、1枚目を撮影するときに固定されます。
●露出補正（60ページ参照）をかけていると、基準となる露出値（±0）もそれに応じて変わります。
●ネガフィルムでは効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。

多重露光

1コマのフィルムに続けて何度も露光することができます。

1. ファンクションダイヤルを の位置まで回します。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部に On を表示させます。

●フィルムカウンターはMEになります。

3. シャッターボタンを押して1回目の撮影を行ないます。

●1回目の露光が行なわれ、フィルムカウンターのMEが点滅します。フィルムは巻き上げられません。

●2回しか露光しない場合は、7に進んでください。

合計３回以上の露光をする場合

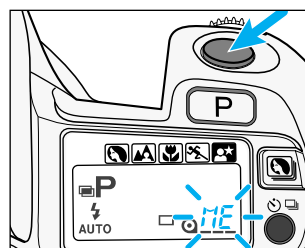
4. ファンクションダイヤルを の位置にして、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回します。

●フィルムカウンターのMEの点滅が止まり、点灯になります。

5. シャッターボタンを押して撮影します。

6. 必要なだけ4、5の操作を繰り返します。

●このときOFFの状態でファンクションボタンを離すと、多重露光は解除されフィルムが巻き上げられてしまうのでご注意ください。、

最後の露光をします

7. MEが点滅している状態で、シャッターボタンを押して最後の露光をします。

●MEが点滅している状態で撮影すると、フィルムが次のコマへ巻き上げられ、フィルムカウンターは通常の状態に戻ります。

●撮影後は多重露光は解除されます。

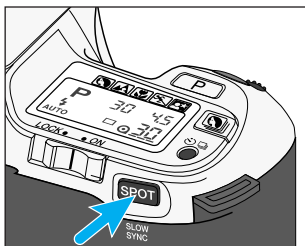
●多重露光撮影では、背景を暗めにすることをおすすめします。日付の写し込みはおすすめできません。また被写体の状況によっては、あらかじめアンダー側に露出補正しておく必要があります。

●撮影の途中で多重露光を解除したい場合は、プログラムセットボタンを押すか、1、2の要領で OFF を表示させます。メインスイッチをOFFにしても解除されません。

●ネガフィルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。

スローシンクロ撮影

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写しだされますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

撮影シーンセレクターの「夜景ポートレート」（34ページ）と得られる効果は同じです。

ファインダー内に⚡が点灯しているとき（フラッシュが発光するとき）に、スポットAEロックボタンを押しながら撮影します。

●ファインダー表示部に ● が点灯します。

●シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
●フラッシュが発光しないときにスポットAEロックボタンを押しながら撮影すると、スポット測光になります（56、57ページ参照）。
●Sモード、Mモードではスローシンクロ撮影はできません。
●スポットAEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように（押し続けなくてもよいように）、カメラの操作方法を変えることもできます。（75ページ参照）。

ワイヤレスフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xiのいずれかが必要です。

①

フラッシュをカメラに取り付けて撮影

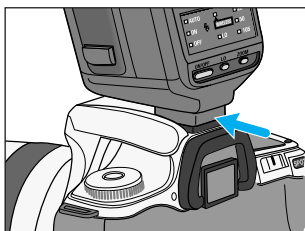
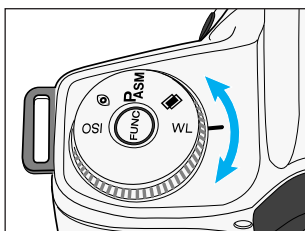
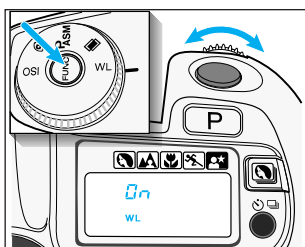
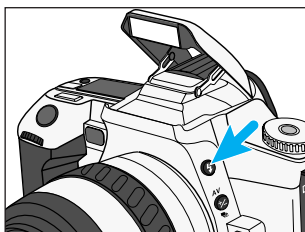
②

ワイヤレスフラッシュ撮影

③

ワイヤレスフラッシュ撮影
（光量比制御）

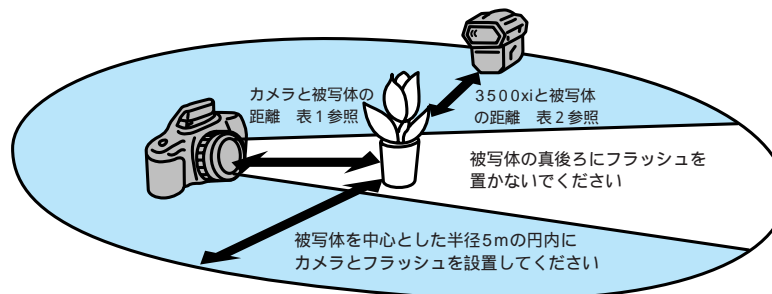
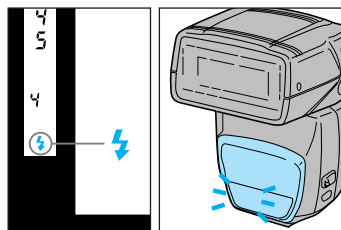
フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから取り外して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます（写真②）。
写真③は、カメラの内蔵フラッシュとカメラから離したプログラムフラッシュの光量を、1：2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。

一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラでは、コードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス（＝コードのない）フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. ファンクションダイヤルをWLの位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部にWL On を表示させます。

4. フラッシュをカメラから取り外し、フラッシュモード選択ボタンを押してカメラの内蔵フラッシュを上げます。

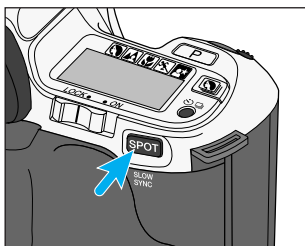
5. カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400xi、3500xiを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

●室内など暗いところで撮影してください。

●3500xiご使用時は、下図の青色の部分にフラッシュを設置してください。その他のフラッシュを使われる場合は、各フラッシュの使用説明書をお読みください。

	カメラと被写体との距離（表1）		3500xiと被写体との距離（表2）	
フィルム感度 絞り値	ISO100	ISO400	ISO100	ISO400
2.8	1.4 - 5 m	2.8 - 5 m	1 - 5 m	2 - 5 m
4	1 - 5 m	2 - 5 m	0.7 - 4.5 m	1.4 - 5 m
5.6	1 - 5 m	1.4 - 5 m	0.5 - 3.2 m	1 - 5 m

6. カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

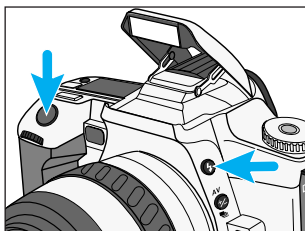
●内蔵フラッシュは、ファインダー内の⚡が点灯すると充電完了です。

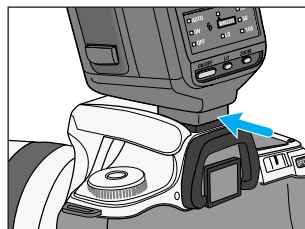
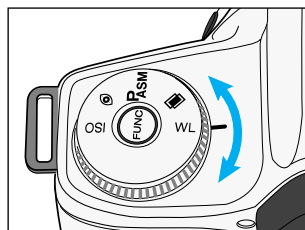
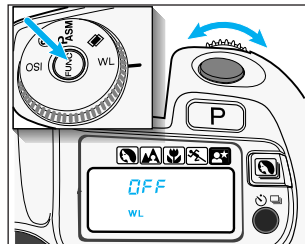
●プログラムフラッシュは、背面の⚡が点灯または点滅し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。

7. カメラのスポットAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

8. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

スポットAEロックボタンの操作方法を変更しているとき
スポットAEロックボタンから指を離しても、その機能が残るように設定を変更しているとき（75ページ参照）は、元の設定に戻すことをおすすめします。操作方法を変更している状態では、ファインダー内に■が点灯している間はスローシンクロになります。また、テスト発光のたびに、スローシンクロ撮影と1/45秒のフラッシュ撮影とに切り替わります。

光量比制御撮影
（プログラムフラッシュと内蔵フラッシュを2：1の割合で発光させる）

プログラムフラッシュを2、カメラの内蔵フラッシュを1の割合で発光させることができます。逆はできません。

通常のワイヤレスフラッシュ撮影と同様にカメラとフラッシュを設定し、カメラのフラッシュモード選択ボタンを押しながらシャッターボタンを押して撮影します。

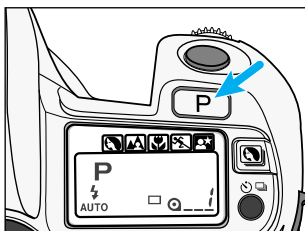
ワイヤレスフラッシュの解除

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. ファンクションダイヤルをWLの位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、ボディ表示部にWLOFFを表示させます。

●プログラムセットボタンを押してもワイヤレスフラッシュを解除できます。

●フラッシュをカメラに取り付けた状態でカメラのメインスイッチをLOCKにしても、ワイヤレスフラッシュは解除されます。
●カメラとフラッシュを離した状態でそれぞれのメインスイッチをLOCKやOFFにすると、カメラのワイヤレス設定は解除されますが、フラッシュは解除されません。フラッシュだけでワイヤレス設定を解除するには、以下のようにしてください。

5400HS： 発光モード切り替えボタン（MODE）を押す
5400xi： 通常メニューでWIRELESSボタンを押す
3500xi： いったんOFFにした後、ワイヤレスフラッシュランプが消えるまで発光ON/OFF切り替えボタンを押し続ける

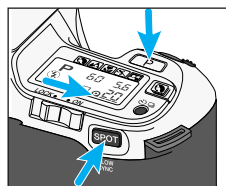
知っておくと便利です

プログラムセットボタンの機能

プログラムセットボタンを押すと、カメラは最も基本的な状態（全自動）になります。

状態が変わるもの	ボタンを押した後の状態	参照ページ
露出モード	P（プログラム）モード	44〜52
撮影シーンセレクター	解除（Pモード）	30〜35
フラッシュ発光	自動発光	23
ピント合わせ	オートフォーカス	54
セルフタイマー	（作動前／作動中に関係なく）解除	36
連続撮影	解除	37
露出補正値	0.0	60〜61
多重露光	（2枚目が未撮影でも）解除	64〜65
ワイヤレスフラッシュ設定	解除	67〜71

以下の設定はプログラムセットボタンを押しても変更されません。
●内蔵フラッシュの赤目軽減発光
●日付と時間
●フィルム感度
●スポットAEロックボタンの操作方法（次ページ参照）
●AF補助フラッシュ発光の有無（次ページ参照）

カメラの操作方法を変更できます

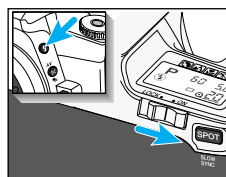
スポットAEロックボタンの操作方法の変更

1. メインスイッチをLOCKにします。
2. スポットAEロックボタンとプログラムセットボタンを押したまま、メインスイッチをONにします。
●ボディ表示部にスポットAEロックボタンの操作方法が表示され、操作方法がかわります。

REL 1

スポットAEロックボタンを押している間のみ、スポット測光またはスローシンクロになります。ボタンを押しながらシャッターを切ってください（57、66ページ参照）。

REL 2

スポットAEロックボタンを一度押して離すと、スポット測光またはスローシンクロになります。シャッターを切るときに、スポットAEロックボタンを押し続ける必要がありません。解除するときは、もう一度スポットAEロックボタンを押してください。
●機能している間は、ファインダー内に●が表示されます。
●スポットAEロックボタンの操作方法を通常の状態に戻すには、上記1の操作を繰り返します。

内蔵フラッシュによるAF補助光の有無

1. メインスイッチをLOCKにします。
2. フラッシュ選択ボタンを押したまま、メインスイッチをONにします。
●内蔵フラッシュによるAF補助光の有無が選択でき、ボディ表示部に表示されます。

On AL

必要時には自動的にAF補助光が発光します。
●内蔵フラッシュを発光禁止にしているときは、AF補助光は発光しません。

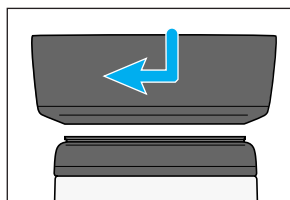
OFF AL

AF補助光は発光しません。
●フラッシュは発光させたいがAF補助光は発光させたくない場合に有効です。
●内蔵フラッシュによるAF補助光なしに設定しても、プログラムフラッシュを使用した場合は、プログラムフラッシュの補助光は発光します。

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

このカメラの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計製造管理されているレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。当社製品以外の付属品をお使いの場合、いかなる事象が生じるかは予想いたしかねます。

レンズ

すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ（Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど）はご使用になれません。

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、フードの使用をおすすめします。

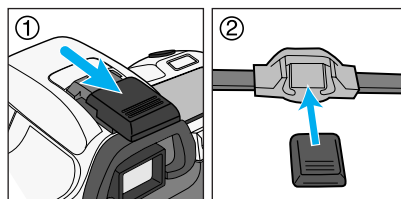
フードとレンズ先端とを合わせ、時計方向に回して取り付けます。

●内蔵フラッシュを使って撮影するときは、フラッシュ光がさえぎられることがありますので、レンズフードを外してください。
●収納するときは逆向けに取り付けてください。

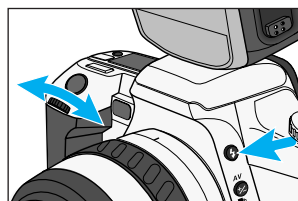
フラッシュ

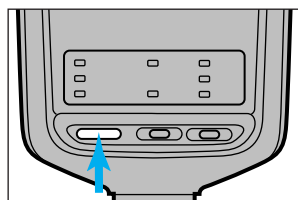
内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュやベクティスフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

●プログラムフラッシュ5400HS*、5400xi、3500xi、2000xi、5200i、3200i、2000i、ベクティスフラッシュSF-1は、そのままご使用になれます。（プログラムフラッシュ5400HSのハイスピードシンクロは使えません。）
●AFシリーズ以前のフラッシュ（Xシリーズなど）や、ミノルタ以外の他社製のフラッシュは、このカメラでは使えません。
●プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AFをご使用になる場合は、以下の点にご注意ください。
- カメラに取り付ける際には、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100が必要です。
- フラッシュの電源をONにすると必ず発光します。
- フラッシュのAF補助光は発光しません。
- フラッシュを外した後のカメラの設定は、強制発光になっています。

操作方法

フラッシュを取り付ける場合は、アクセサリーシューキャップを外してください①。また、キャップはストラップに付いているアイピースキャップに収納することができます②。

●フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
●フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。
●赤目軽減発光はできません（内蔵フラッシュ以外ではそれほど目が赤く写らないため）。

カメラ側、フラッシュ側のどちらでも操作できます。

カメラ側で操作する場合

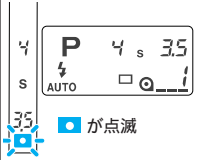
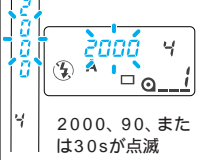
カメラのフラッシュモード選択ボタンを押しながらダイヤルを回します。自動発光AUTO、強制発光、発光禁止のいずれか１つが選択できます。

3500xi場合

フラッシュ側で操作する場合

フラッシュのON/OFFボタンを押します。押した後、シャッターボタンを半押しすると、カメラのボディ表示部に現在のモードが表示されます。Pモードおよび撮影シーンセレクター選択時は、自動発光AUTOと発光禁止しか選択できませんので、フラッシュを必ず発光させたいとき（強制発光）はカメラ側で操作を行ってください。

●A／S／Mモード時は、内蔵フラッシュと同じく、強制発光または発光禁止しか選べません。

その他のアクセサリー

以下のものは、このカメラと組み合わせての使用はできません。

- アングルファインダー
- コントロールグリップCG-1000
- マグニファイヤー
- データレシーバーDR-1000
- ワイヤレスコントローラーIR-1N

●ファインダー内の像がはっきりと見えないときは、別売りの視度調整アタッチメント1000を取り付けて視度を調整することができます。近視用4種類、遠視用5種類があります。

このアクセサリーについての情報は1999年3月のものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏表紙に記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

測光値表示が点滅したときは（露出の警告）

そのまま撮影すると適正露出が得られないときは、測光値表示が点滅してお知らせします。点滅しないように設定を変えてください。

	表示部	原因	処置
P/A/S/M	P 4 s 3.5 AUTO ［●］が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。（スポットAEロックボタンを押してフラッシュが発光しない場合にのみ現われます。）	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P	P 2000 22 AUTO シャッター速度と絞り値が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています。	
A	2000 4 A 2000、90、または30sが点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、シャッター速度の範囲を超えています。	シャッター速度が点滅しないように、絞り値を変更します。
S	2000 3.5 S 最大または最小絞り値が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を超えています。	絞り値が点滅しないように、シャッター速度を変更します。

●上記のうち、上の2つは撮影シーンセレクター選択時にも表示されることがあります。

あれっ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。

症状	点検項目	処置	ページ
ピントが合わない。	ボディ表示部に M.FOCUS が表示されていませんか。	フォーカスモードボタンを押してオートフォーカスにしてください。	54
	オートフォーカスの苦手な被写体（21ページ参照）を撮ろうとしていませんか。	フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行なってください。	22, 54
	被写体に近づきすぎていませんか。	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。 （最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。）	–
シャッターが切れない。	ピントは合っていましたか。	ピントが合わないとシャッターは切れません。 フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行なってください。	22, 54
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けていませんか。	天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。	–
暗いところでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する。	暗いところでもピントが合うようにするためのフラッシュ（AF補助光）です。	フラッシュを発光禁止にすると、AF補助光も発光しません。 または手動によるピント合わせを行なってください。	20, 54, 75
写真がぶれてしまう。	暗いところでフラッシュを発光させずに撮影しませんでしたか。	フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。 高感度フィルムを使うと手ぶれが少なくなります。望遠レンズを使ったり、フラッシュを発光させずに撮影すると、手ぶれしやすくなります。	–
フラッシュ撮影したものが全体的に暗くなる。	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。別売りのフラッシュをご使用のときは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。	23
フラッシュ撮影したものの下部が暗くなる。	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外してください。	–
ボディ表示部にErrが表示される、またはカメラが正常に作動しない。		電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して表示される場合は、裏表紙記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。	–

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
●新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、メインスイッチをONにすると が点滅することがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は－20℃～50℃です。
●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他

●カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。
●カメラに強い衝撃を与えないでください。
●バッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをLOCK位置にしてください。
●飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。
●このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

●カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷を付けますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
●レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭いてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
●シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーのほこりは露出には影響しませんが、オートフォーカスには影響を及ぼす恐れがあるため、ミラーおよびその周辺のほこりをとる場合は、ブロアーでほこりを吹き飛ばしてください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
●レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

●使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。
●長期間使用しないときは、電池を抜いてください。
●保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
●防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
●保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

●前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。
●万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

●本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
●アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

主な性能

オートフォーカス　方式：TTL位相差検出方式　検出素子：CCD1ラインセンサー　検出範囲：EV－1～18（ISO100）　動体予測フォーカス制御

AF補助光　内蔵フラッシュによる補助光　低輝度、低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：約1～5m　プログラムフラッシュ装着時、フラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え

測光方式　TTL開放多分割測光、スポット測光　受光素子：8分割ハニカムパターンSPC（シリコンフォトセル）　フラッシュ光調光用SPC　測光範囲：EV1～20　スポット測光時はEV4～20（ISO100、F1.4レンズ使用時）

シャッター　電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/2000～30秒、バルブ（露出時間はカメラの電池寿命により制限）　フラッシュ同調最高速度：1/90秒　ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/45秒

内蔵フラッシュ　ガイドナンバー：12（ISO100・m）　照射角：焦点距離28mm　充電時間：約3秒（カメラと電源を共有）　Pモード／撮影シーンセレクター：自動ポップアップ、自動発光（強制発光、発光禁止可）　A／S／Mモード：フラッシュアップ時は強制発光、ダウン時は発光禁止　赤目軽減プリ発光選択可能

ファインダー　ルーフミラー式一眼レフレックス方式　視野率：90%×90%　倍率：0.75倍（50mmレンズ、∞位置）　視度：－1ディオプトリー　アイポイント：16mm（接眼枠より13mm）

フィルム給送　オートローディング（1コマ目まで自動送り）　1コマ撮影／連続撮影（1コマ／秒）／多重露光／セルフタイマー切り替え可能　自動巻き戻し　途中巻き戻し可能　24枚撮りフィルム使用時の巻き戻し時間：約20秒

フィルム感度　DXコード付きフィルム使用時は自動設定（ISO25～5000）手動設定可能（ISO6～6400、1/3ステップ）　DXコードの付いていないフィルム使用時は前回のフィルム感度を自動設定　フラッシュ撮影時はISO25～1000のフィルムを推奨

撮影可能本数　試験条件：AFズーム35-80mm F4.0-5.6 II　24枚撮りフィルム・新品電池使用、1ヵ月に2本撮影

●標準撮影時（1コマごとにレンズを無限遠から2mまで3回駆動させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後撮影、その他撮影準備を含む）

温度	20℃	－10℃
フラッシュ使用しない	約40本	約30本
フラッシュ50%使用	約17本	約13本
フラッシュ100%使用	約11本	約8本

●カメラの操作回数が少ない場合（1コマごとにレンズを無限遠から2mまで1回駆動させ、シャッターボタン半押しで5秒保持後撮影、その他撮影準備を含む）

温度	20℃	－10℃
フラッシュ使用しない	約65本	約50本
フラッシュ50%使用	約23本	約18本
フラッシュ100%使用	約14本	約10本

●カメラの使い方により撮影可能本数は変わります。
●電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをLOCKにしてください。
●36枚撮りフィルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。

大きさ　135（幅）×90（高さ）×61（奥行き）mm

重さ　360g（電池別、クォーツデート用電池含む）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語のConformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。